別紙１

様式第６号の６

学番	１４	県立豊栄高等学校

令和７年度　　学校自己評価表（報告）

学　校　運　営　計　画		
学 校 運 営 方 針	目指す学校像 １ 自分を大切にするとともに、他者を敬う心や態度を育む学校 ２ 地域から愛され、地域とともに生徒の成長を支援する学校	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①１つの物事を多様な視点から捉える姿勢を育成します。 ②複数の事柄を関連付けて考えることができる能力を育成します。 ③課題を発見し、他者と協働して課題を解決しようとする態度を育成します。 ④自他をともに尊重する姿勢と、よりよくコミュニケーションをとる能力を育成します。 ⑤自己の将来の生き方を主体的に考え、行動する意欲を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①第２学年以降のコース制により、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばします。 ②全ての教科および総合的な探究の時間で地域と連携した取組を行います。 ③きめ細やかな学習支援と学び直しにより、課題解決に必要な資質・能力を養います。 ④キャリア教育により人間関係をつくる力、情報を活用する力、将来を見通し、責任をもって意思を決定する力をバランス良く育成します。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①できなかったことをできるようになりたい生徒 ②学校内外の人との関わりの中で視野を広げたい生徒 ③自己も他者も大切にして、ともに高め合いたい生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
［成果］ ・地域連携の深化 ・ＰＴＡ等と連携した、学習成果発表会の実施 ・いじめや問題行動への適切かつ丁寧な対応 ・希望者全員の就職内定 ［課題］ ・効果的な地域連携 ・発達支持的生徒指導や課題未然防止教育によるいじめや問題行動の未然防止 ・学習の個別最適化による個に応じた学習の推進 ･生徒の進路希望の達成	地域と連携した取組を効果的に行い、生徒の地域への関心を高める。	・教育活動に応じた効果的な地域連携を行う。 ・地域連携により、生徒が成長を実感する。また、生徒の地域への関心が高まる。
	発達支持的生徒指導や課題未然防止教育により、いじめや問題行動を未然に防止する。	・いじめを予防する取り組みやいじめの発見を適切にできる組織体制を構築する。 ・いじめを積極的に認知しつつ、認知件数を抑制する。 ・問題行動の発生件数を昨年度よりも減少させる。
	ＩＣＴを活用して、学習の個別最適化を図る。	・学校向け総合ＩＣＴサービスの学習支援機能の活用を維持する。 ・校務や授業に教育用クラウドサービスを活用する。 ・ＣＢＴによる到達度テストにより、学習のＰＤＣＡサイクルを確立する。
	３年５月時点での進路希望を達成させる。	・３年５月時点での進路希望と進路決定状況の差を少なくする。 ･２年夏季休業におけるインターンシップなどの職業体験活動への参加者を増加させる。 ・２年５月時点での進路希望調査において、進路未定生徒を少なくする。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
地域と連携した取組を効果的に行い、生徒の	教育活動に応じた効果的な地域連携を行う。	教科授業、総合的な探究の時間、部活動、生徒会活動の何れにおいても効果的な地域連携を２件以上行う【R7（授)葛塚市ポスター、(総)葛塚市、松浜市、ビュー福島潟、松潟屋、北区郷土資料館、北宝隊（部)福島潟マラソン、南浜漁港（生)葛塚市、豊栄商工会】	Ａ	Ａ

地域への関心を高める。	地域連携により生徒が成長を実感する。また、生徒の地域に関する関心が高まる。	意識調査において、質問「学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか。」に対して肯定的回答を80％以上にする。【R7 86.5％】	A	A	
		意識調査において、質問「地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習することで、地域に対する興味・関心は高まりましたか。」に対して肯定的回答を60％以上にする。【R7 78.8％】	A		
		意識調査において、質問「自分の生まれ育った地域に将来貢献したいと思いますか。」に対して肯定的回答を80％以上にする。【R7 84.6％】	A		
発達支持的生徒指導や課題未然防止教育により、いじめや問題行動を未然に防止する。	いじめを予防する取り組みやいじめの発見を適切にできる組織体制を構築する。	学校生活アンケートにおいて、質問「あなたの学校の先生方によるいじめに対する取組はどうですか。」に対して肯定的回答を75％以上にする。【R7 81.6%】	A	A	A
		第２回いじめ対策総点検において、校内研修への職員の参加率を80％以上にする。【R7 研修４回で 80.9％】	B		
		第２回いじめに関する自己点検において、職員の正答率を90％以上にする。【R7 第１回で93.6％】	A		
	いじめを積極的に認知しつつ、認知件数を抑制する。	いじめの疑いを含むいじめ認知件数を40件以下にする。【R7 １月末までで 20件】	A		
	問題行動の発生件数を昨年度よりも減少させる。	校長説諭以上の特別指導の件数を13件以下にする。【R7 １月末までで14件】	B		
学習の個別最適化による個に応じた学習の推進	学校向け総合ＩＣＴサービスの学習支援機能を活用する。	全学年において、国語、地歴、公民、数学、理科、外国語、情報の開講科目の過半数で学校向け総合ＩＣＴサービスの学習支援機能を利用する。【R7 延べ10教科で使用】	B		B
	校務や授業に教育用クラウドサービスを活用する。	１月のＩＣＴ活用状況調査において教育用クラウドサービスを活用することができる教員を75％以上とする。【R7 50.0％】	C		
	ＣＢＴによる到達度テストにより、学習のＰＤＣＡサイクルを確立する。	９月課題テストにおいてＣＢＴによる到達度テストを実施し、連動課題を配信する。【R7 １学年のみＣＢＴ＋連動課題を実施】	B		
生徒の進路希望の達成	３年５月時点での進路希望と進路決定状況の差を少なくする。	３年５月時点での進路希望と卒業時の進路決定状況の差について、大学等、専修学校等、就職の各区分で25%以下にする。【R7 大学等、専修学校等、就職の人数 5月(0,11,18)→1月(1,9,18)】	A		A
	職業体験活動への参加者を増加させる。	・２年インターンシップなどの職業体験活動への参加者を令和７年度よりも増加させる。【R6 6人 → R7 10人】	A		
	進路未定の生徒を減少させる。	・２年５月時点での進路希望調査において、進路未定の生徒を２人以下にする。【R7 0人】	A		
成果		・探究学習において地域と連携した活動が増加した。 ・いじめや問題行動に的確に対応し、生徒の安心感に繋がった。 ・１月までにほとんどの３年生全員が希望通りの進路を決定した。	総合評価 A		